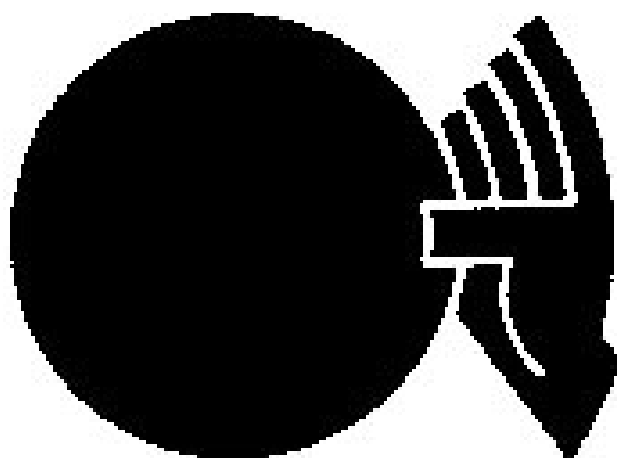


小学生におけるドッジボールの指導とチーム運営に関する実態調査
小学生ドッジボール全国大会出場選手の体力・運動能力等に関する調査

調査結果



一般財団法人日本ドッジボール協会
普及委員会

ま え が き

一般財団法人日本ドッジボール協会は、1991年設立から2020年まで都道府県協会、チーム関係者と共に歩んでまいりました。

一般財団法人日本ドッジボール協会普及委員会として今回、「小学生におけるドッジボールの指導とチーム運営に関する実態調査、小学生ドッジボール全国大会出場選手の体力・運動能力等に関する調査」をさせていただきました。

一般財団法人日本ドッジボール協会が、調査の開始として「ドッジボールの指導・研究ハンドブック(ドッジボールのスポーツ医科学研究)」(2009年)、「ドッジボールにおける運動特性と指導法の研究」(2012年)以来の調査です。

調査結果等の活用として、チーム運営に関する課題、指導者が日頃大切にしていること、保護者会の運営に関しての悩み、家庭での生活習慣に関してのこと、選手の体力、運動能力などを普及や指導の際に役立てて「おやこドッジすくうる」と「ドッジボール体験教室」開催の参考や普及委員会が目指しているテーマ「チームづくりの推進」に取り組んで実践していただきたいと思います。

最後になりますが、調査対象チームの代表者、指導者、保護者及び選手のみなさん並びに各都道府県協会普及委員長及び各ブロック普及部長には、調査にあたり依頼や集計等の御協力をいただきましたことに心から感謝申し上げます。

2020年5月

一般財団法人日本ドッジボール協会
普及委員会 委員長 山田 孝

小学生におけるドッジボールの指導とチーム運営に関する実態調査

小学生ドッジボール全国大会出場選手の体力・運動能力等に関する調査

調査結果

企画・運営 一般財団法人日本ドッジボール協会 普及委員会

【調査結果の回答：35 チーム】

1 調査目的

- (1) 全国的な子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、ドッジボール競技者としての子供の体力・運動能力等の状況を把握・分析することにより、日本ドッジボール協会普及委員会の取組の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 指導者の指導理念や指導の実際、チームの運営状況等の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力等の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各チームが子供の体力・運動能力等や生活習慣、食習慣等を把握し、チームにおける指導などの改善に役立てる。

2 調査期間 2019年11月1日～30日

3 調査対象 日本ドッジボール協会所属チーム
(2019年8月に実施した「第29回全日本ドッジボール選手権全国大会」の出場チーム)
チーム代表者、保護者会代表者、代表指導者、登録選手

4 調査結果等の活用

- (1) チーム代表者及び指導者においては、調査結果を踏まえ、子供の全般的な運動習慣の改善等に努めるとともに、自らの指導方法・内容等の改善に向けて保護者と連携を図りながら取り組むこと。
- (2) 保護者においては、調査結果を踏まえ、子供の生活習慣及び食習慣等の改善に努めるとともに、家庭における習慣等の改善に向けて、チーム代表者及び指導者と連携を図りながら取組を進めること。

5 調査方法

質問紙調査

- ※ 選手については「実技に関する調査」も含む
- ※ 実技に関する調査項目（8項目）
握力、上体起こし、長座体前屈、反復横跳び
20m シャトルラン、50m 走、立ち幅跳び、ソフトボール投げ

<参考資料>

実技調査項目	単位	体力要素	測定
握力	kg	筋力	左右握力の平均値
上体起こし	回	筋パワー、筋持久力	30秒間に上体を起こした回数
長座体前屈	cm	柔軟性	長座位で前屈した時の両手の前方へ移動距離
反復横跳び	点	敏捷性	20秒間に両脚で左右側方に反復跳躍した回数
20m シャトルラン	回	全身持久力	20m 走行の折り返し回数
50m 走	秒	疾走能力	50m の疾走時間
立ち幅跳び	cm	筋パワー、跳躍能力	両脚で前方へ跳躍した距離
ソフトボール投げ	m	巧緻性、投球能力	ソフトボールを遠投した距離

6 調査結果の取扱いに関する配慮

調査結果については、自らの子供の体力・運動能力及び子供の体力・運動能力等の向上に係る取組の改善、子供の全般的な運動習慣の改善等につなげることが重要であることに留意し、適切に取り扱うものとする。

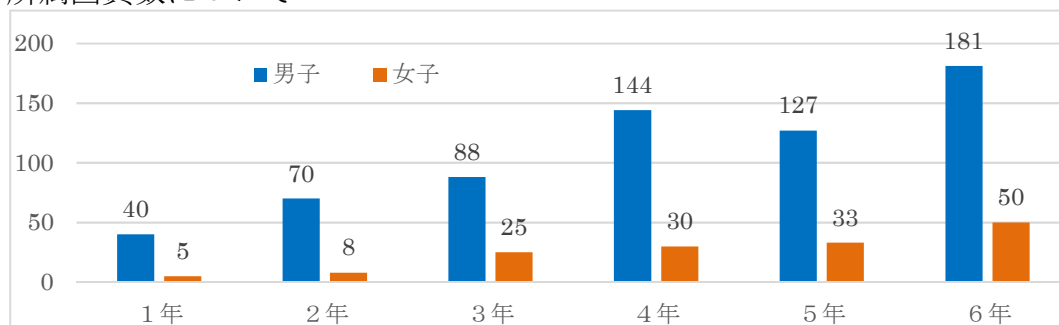
また、実技に関する調査（体力テスト）については、体力・運動能力の特定の一部であること、チーム内における教育活動の一側面であることなどを踏まえるとともに、序列化や競争が生じないようにするなど教育上の効果や影響等に十分配慮することが重要である。

なお、チーム代表者、保護者会代表者及び指導者は、調査に関して知り得た個人情報について、それぞれが遵守すべき個人情報保護関係法令等に基づき、適切に取り扱う。

7 調査結果及び分析

(1) チームについて [調査対象：チーム代表者]

ア 所属団員数について



チームに所属している選手を学年で比較すると、上学(4～6年)生が多い。また、男女別の割合は、男子が約8割、女子が約2割である。

イ チーム運営に関する悩みや課題について

どのチームも「団員数の減少」「選手確保」が一番大きな悩みとなっている。次いで、「指導者不足」「指導者の継続」「後継者育成」となっている。他にも「チーム帯同の審判員確保」「金銭面」「指導者と保護者の意思疎通の難しさ」が上げられている。

ウ 「選手確保」のための主な取組

- 市(町)の広報紙へ掲載
- 募集チラシの配布
- ホームページでの情報発信
- 店舗や学校内にポスター掲示
- 友達を誘う(チームのよさを伝える)
- 体験会(体験教室)の実施
- 低学年大会開催時に勧誘
- 自由な練習見学
- 保護者からPTA活動などで声かけ
- 地域での行事等へ積極的に参加し呼びかけ

「選手確保」のために様々な取組を行ってもらっている。

取組を分類すると大きく3つの取組を行っている。「広報媒体の活用」「声かけ・呼びかけ等」「体験活動等」である。

【具体的な事例】

毎月一回の保護者会を行います。その中で、選手勧誘のイベント等について話し合ってもらいます。年間5回程度の勧誘イベントを組んでもらい、選手たちの地域・学区にチラシ配りや、ロコミでのイベント参加を行ってもらいます。特に、お母さんネットワーク力を生かして、チーム宣伝及び勧誘を行ってもらっています。

(2) 保護者会について [調査対象：保護者会代表者]

ア 保護者会数について

ある	ない
3 2 チーム	3 チーム

イ 保護者会の運営に関する悩みや課題について

「指導者や他の保護者が協力的で悩みや課題等はない。」という回答がある一方、保護者会の代表者として日々悩んでおられる回答が多くあった。大きく6つに分類してみた。

[保護者の意見集約]

- 指導者と保護者会運営員に対して、運営方法や費用面で納得しない保護者が一つ一つに意見を言うてくること。
- いろんな人、いろんな考え方があって、まとめるのが大変である
- 保護者が行う練習協力依頼や、遠征費の負担などを理解してもらうための細やかな説明やケアが必要であること。
- 親が選手ファーストになってもらえないこと。
- 近年、世帯数が増えたので、意見を反映するのは難しくなっている。
- その年その年、悩みは違うと思いますが、保護者会の在り方や代表の在り方等に随分悩みました。指導者と保護者の間に自分が居ること、双方の思いのくい違い等が出た時にどう対処していくのが良いのか、私を間にはさむ事によって、私なりの意見の角を取り、伝える様にしていたのですが、会長に言ってもムダとか、何で全てをこちらに教えてくれないのが等々伝えるべき事、伝えなくても良い事、判断してやっけていても不満がうまれ、全て伝えてもきっと不満がうまれ、本当に難しい立場でした。
代表という立場でなければ、言えることも多々あるのに、子供たちのためという思いは、保護者も指導者も同じ、もしくは指導者の方がすごく強く思ってくれていた様に思います。
時代のせいでしょうか子供たちのためではなく、保護者の思いだけで色々な楽しい経験、成功につながる失敗、思いやりにつながる涙、強い心を育むための全てをそんな機会をつぶす事があった様に感じます。
- いろいろな考え方の方がいるので、チームとして、保護者でまとめるのが難しい。

[選手確保]

- 保護者会での課題は新入部員を増やすことだと思っています。
- 保護者の中で多少の温度差があり、意見をまとめるのが難しい。
- 来年以降の部員数の確保。

[金銭面]

- 大会・遠征等の時期、場所、費用面における考え方の違い。
- 遠征費が毎回掛かってしまう為各家庭の負担が重くなっていました。
- 県内チームが少ないため、どうしても県外への遠征が多くなる。そのため、費用面やサポートの面での負担が大きくなってしまうこと。
- 県外遠征が増えるため、金銭的な事や子供たちの体力面での遠征反対派と強くなる為に遠征賛成派で別れる。
- 県外派遣費や各種予算の確保が難しい。

[協力体制]

- 上級学年や役員が自分の担当しか運営内容についてわかっていない。
- それぞれの家族状況や経済状況がある中で活動していくことの調整の難しさ。負担分をどう振り分けるかなど。
- チームプレイなのですが、「チームワーク」というものを、全員で理解できていない現状です。個人のプレイという考え方の方がいるのがとても残念です。

[連絡体制]

- 連絡の取りまとめなど（期日があるものは困った）
- 連絡体制の確立が難しい。

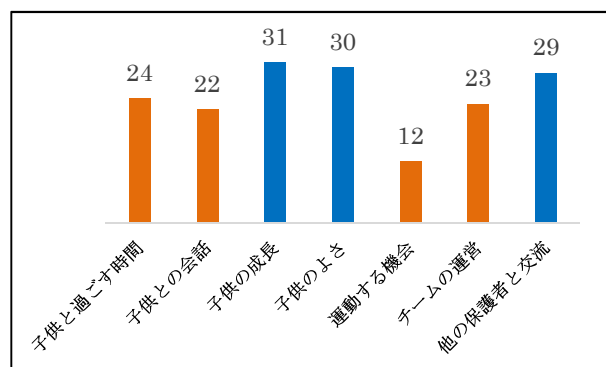
[その他]

- 自分の経験の無さもあり、日々、各保護者とどう接していくか考えている。
- 世帯数は多くありませんが、いろんな地域、学校が混ざっているチームなので、保護者会を開くのも時間帯、日時などを悩むことが多いです。
- 最終的なものは、実力ではなく、「メンタル」や「チームワーク」だと感じ、今後も大きな課題となっています。
- 運営をまかなうことが難しい。

ウ ドッジボールに関わって良かったこと（複数回答）

右のグラフから、ドッジボールに関わって「子供の成長を確認できた」「子供のよさを発見できた」の回答が多かった。

また、「他の保護者との交流」が図れたことについても多くの回答があった。



(3) 指導者について [調査対象：指導者代表]

ア 基礎資料について

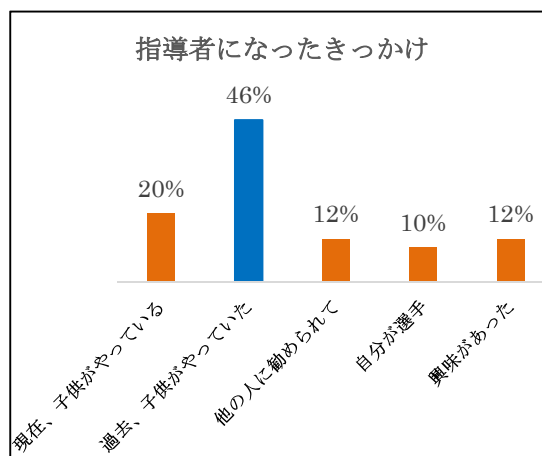
男女別の指導者（監督・コーチ・マネージャー等）の割合は、男性が約8割、女性が約2割である。

	平均値	最小値、最大値	
年 齢	54.6歳	最小値：23歳	最大値：62歳
指導歴	17.4年	最小値：2年	最大値：27年

イ 指導者になったきっかけについて
指導者の多くの方が「過去、子供がドッジボールをしていたから」と回答している。

そして、子供が卒業後（卒団後）も継続して指導を行ってくださっている。

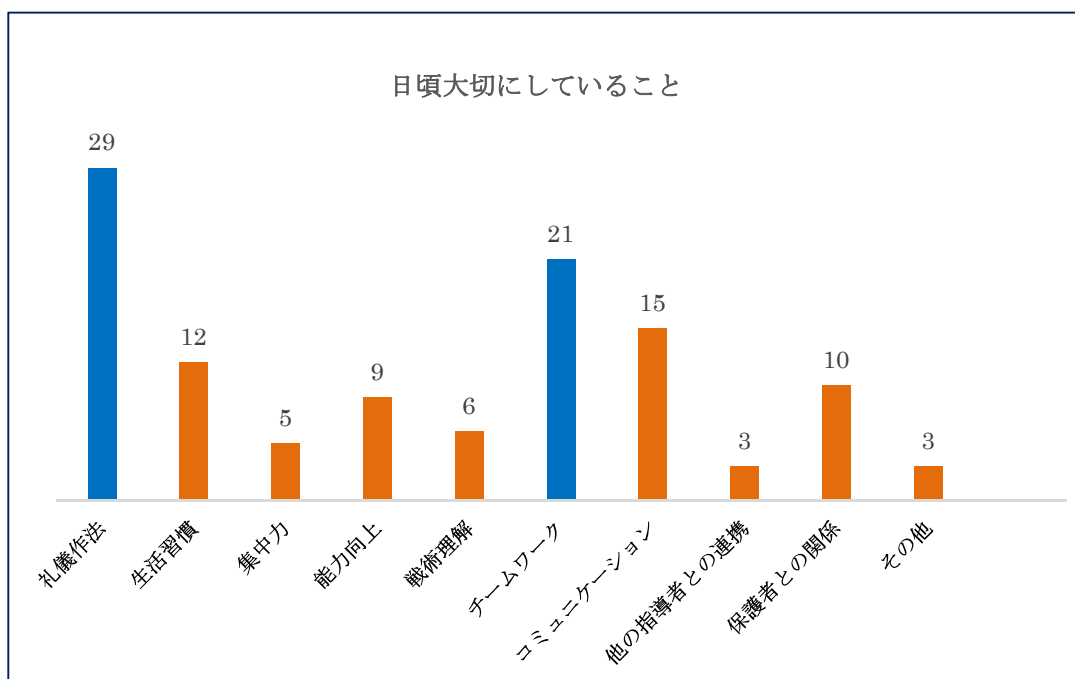
また、8名の方が20年以上も指導者として携わっている。

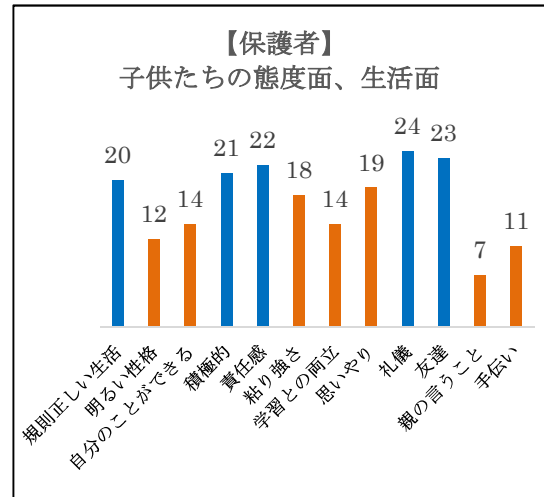
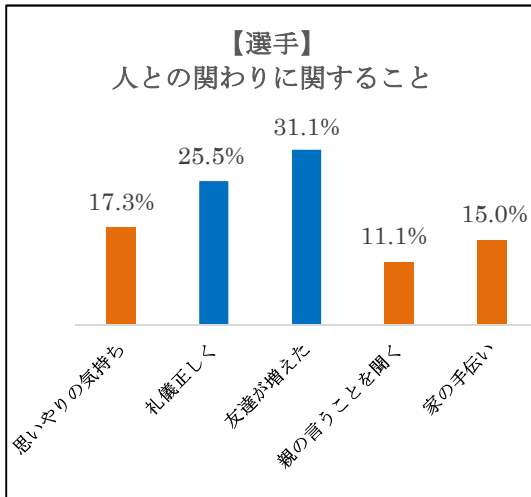


ウ 指導として日頃大切にしていること（複数回答）

多くの指導者が「礼儀作法」と回答している。また、「チームワーク」や「コミュニケーション」も多かった。

選手や保護者の意見として、「礼儀正しくなった」という回答が多く、指導者としての思いが選手や保護者へしっかり伝わっていることが分かる。

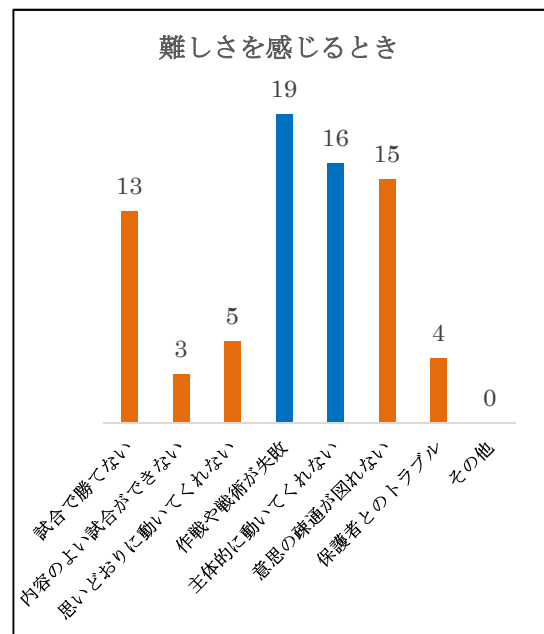
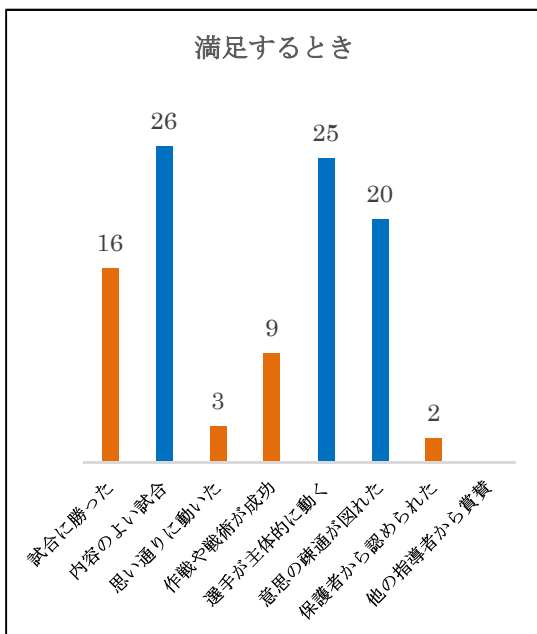




エ 指導者になって「満足するとき」、「難しさを感じる時」について
指導者として「満足するとき」また「難しさを感じる時」は指導者にとって様々である。

満足するときは、「内容のよい試合」「選手が主体的に動く」「意思の疎通が図れた」の回答が多い。反面、難しさを感じる時は、「作戦や戦術が失敗」「主体的に動いてくれない」「意思の疎通が図れない」の回答が多かった。

指導者として、大会（試合）で結果を出さなければならないという思いが大きいようである。



※ 少数回答ではあるが、満足するときの回答で「保護者から認められた」という回答がある。指導者は、どうしても結果を期待されることから、保護者として結果を求めるだけでなく、指導者としての人間力についても正しく評価してもらいたい。

オ 練習について

週あたりの練習回数（平均）	3. 2回
1回あたりの練習時間（平均）	2. 9時間

※ 土曜日に練習することが多く、長時間練習をしている。

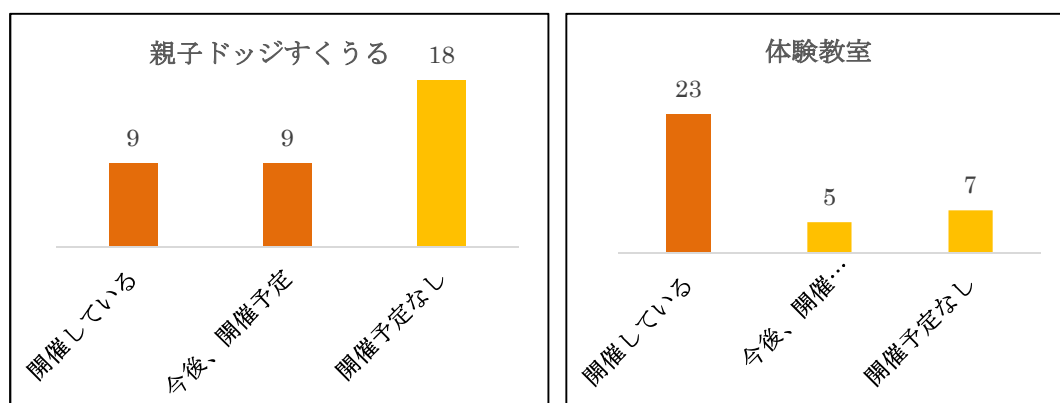
【練習内容実践事例】

練習時間：140分（平日）	練習時間：210分（土曜日）
<ul style="list-style-type: none"> ・持久走（15分） ・サーキットトレーニング（5分） ・アジリティトレーニング（20分） ・連携パス練習（10分） ・キャッチング練習（15分） ・アタック練習（15分） ・保護者・指導者が選手をはさみキャッチング練習（1時間） 	<ul style="list-style-type: none"> ・体操、ストレッチ、体幹トレーニング、ランニング、ダッシュ（1時間） ・膝つきキャッチ練習（ゴロキャッチ・下手投げ・上手投げ）（30分） ・キャッチボール（1：1、2：2）（30分） ・ターンの練習（10分） ・実践練習（1時間） ・クールダウン、掃除（20分）

※ 他にも「縄跳び」「8の字長縄跳び」「フットベースボール」などを練習内容に取り入れているチームもある。

カ 「おやこドッジすくうる」と「体験教室」について

集合学習①で学んでいただいた「おやこドッジすくうる」については、9チームが既に実践してもらっている。また、「ドッジボール体験教室」については、23チームが実践している。（複数回開催しているチームもある。）



※ 普及委員会では「チームづくりの推進」をテーマに取り組んでいるところである。選手確保が困難な時だからこそ、両イベントを効果的に実践していただき、幼児及び小学低学年生の子供たちへドッジボールの楽しさ・おもしろさを味わってもらいたいと思う。

キ 指導者の後継者育成について

チームづくり(新規・継続)には指導者の確保が欠かせない。各指導者とも、様々な取組をおこなっている。

[指導方法の共有化]

- 自分の指導方針を常に伝えるようにしている。
- 練習メニュー等を書き残して、今まで何をやっていたか分かるようにしている。
- 指導方法や内容について、情報の共有をしている。
- OB, OG を練習試合や大会に連れていき、ベンチに入れて、プレイについて話をする。
- 指導者間で指導方針の確認を行い、実践に反映させる。
- 作戦会議を含めた親睦会の開催
- 練習後、練習試合後、大会参加後に、なるべく話し合いの場を設けるようにしています。
- 次期指導者を中心に意見交換しています。
- 選手たちに対して、いま、どのような指導をしていったらいいのかなど、常に、共通理解や意思疎通を図っています。

[練習会への参加]

- 積極的に練習に参加してもらっている。
- 練習に関わってもらう時は、練習メニューを考えてもらったり、自分たちが苦労した事や役に立った事など話をしてもらったり練習メニューに加えてもらう。
- OB に対し練習参加(指導)を依頼する。保護者に対し練習参加を呼びかける。
- 保護者が練習に来てくれた時、子供たちにアタックを打って貰うなど練習に参加してもらう。
- 練習を分業制にして、指導に入ってもらう。
- 保護者やOBへの練習参加の呼びかけ。
- OB 達に声をかけ、地元就職した子には時間があいている時には、練習に参加してもらう。
- OB を中心に基本(投げ方、取り方)や戦術を子どもたちに話してもらうよう心がける。
- 保護者及びOB・OGに声をかけ練習に参加してもらう
- OBへの練習参加・審判依頼の声かけ
- OB、OGに練習にきてもらい指導補助

[環境づくり]

- 卒業生が来やすい環境づくり。シニアチームの活躍をいかす。
- 卒業しても関わってもらえるような環境づくり。
- ドッジボールを続けてもらえる OG・OB の育成に取り組んでいる。
- 中学、高校、大学とも練習に参加できる環境にし、彼ら彼女達が社会人になった時、指導者になりたいと思うように導いている。
- 小学生を卒業しても、いつでも体育館に足はこんでくれるような環境づくりをしている。
- ドッジボールを通して、子供たちの成長を手助けしていけるような取り組みを行っている。

[資格取得]

- 卒業生へ審判資格取得のお願い。
- 保護者の方で興味がある場合は、審判資格を取得してもらい練習にも一緒に参加してもらおう。
- 保護者には一家庭は必ず一名審判資格の取得を勧めている。初回費用の半額を倶楽部費から補助している。
- 指導者資格・審判員資格の取得の促進。
- 随時指導者講習を受講してもらい、指導者の増加に努めている。
- ルール講習会に参加してもらおう。
- 学童の指導員には、審判資格を習得させ、チームでの練習、練習試合、大会等で審判として参加させている。

[その他]

- 卒団した父親、母親にも残留してもらい、指導者に回ってもらおう。
- 勝ち負けにこだわらない指導ができるようになるためには、研修や心掛けが必要だと思うので、指導者になるには時間が要すると感じています。
- C級審判取得から指導者へ移行してもらおうように努力する。

(4) 選手について

ア 実技（体力・運動能力）に関する調査結果及び分析・・・別紙①、別紙②

① スポーツ庁が調査した「令和元年度全国体力・運動能力調査」（調査対象者：5年生男女）の集計と比較して、ドッジボール選手権全国大会へ出場した選手（5年生）は、全ての項目で上回り、総合的な体力は良好である。

② 項目によっては、3・4年生が全国の5年生の平均より上回っている。

③ ドッジボール選手権全国大会へ出場した5年選手（以下「甲」という。）と全国体力・運動能力調査対象者の5年生（以下「乙」という。）を比較すると、特に、「20mシャトルラン」、「上体起こし」、「反復横跳び」、「50m走」及び「ソフトボール投げ」において、甲がかなりの好結果となっている。

(ア) 「20mシャトルラン」において、甲男子が67.51回に対し、乙男子は50.32回。甲女子は62.42回に対し、乙女子は40.80回となっている。甲の持久力がかなり高いことがいえる。また、3・4年生の結果が乙男女の結果より上回っている。

(イ) 「上体起こし」において、甲男子が23.65回に対し、乙男子は19.80回。甲女子は22.29回に対し、乙女子は18.95回となっている。また、4年生（男子：21.36回、女子：23.50回）の腹筋力も乙男女と比べて高い結果となった。

(ウ) 「反復横跳び」において、甲男子が46.34回に対し、乙男子は41.74回。甲女子は47.23回に対し、乙女子は40.14回となっている。また、4年生（男子：42.07回、女子：41.57回）の瞬発力も乙男女と比べて高い結果となった。

(エ) 「50m走」において、甲男子は8.77秒回に対し、乙男子は9.42秒。甲女子は9.03秒に対し、乙女子は9.63秒となっている。また、4年生（男子：8.99秒、女子：9.14秒）の走力も乙男女と比べて高い結果となった。

(オ) 「ソフトボール投げ」において、甲男子は29.00mに対し、乙男子は21.60m。甲女子は24.71mに対し、乙女子は13.59mとなっている。3・4年生の結果が乙男女の結果より上回っている。

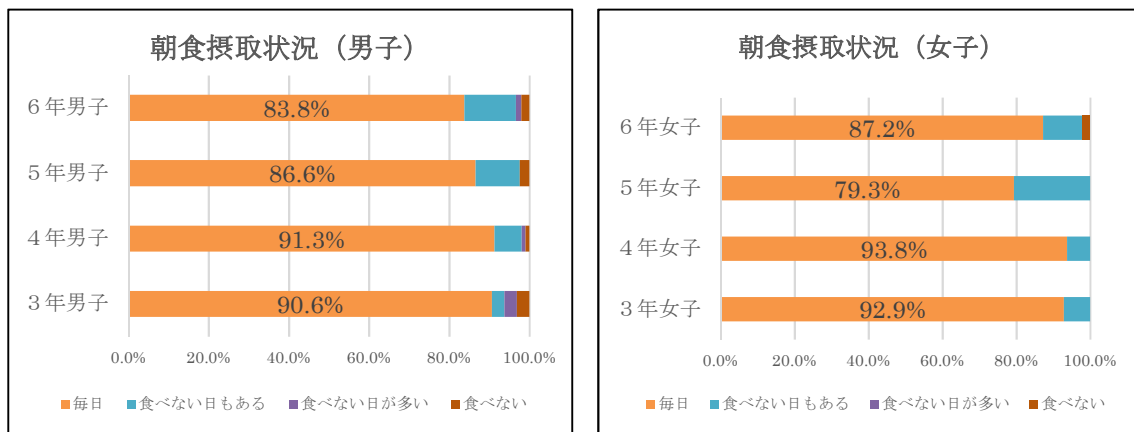
④ しかし、「握力」、「長座体前屈（柔軟性）」、「立ち幅跳び（脚力）」は、全国平均より高いもののさほど差が見られなかった。

全ての調査項目が高水準であったことから、日頃の練習等で培ってきたものと考えられる。ドッジボールをすると、投球能力、巧緻性及び敏捷性はもちろんだが、持久力、疾走能力等も相乗効果として上がっていることが分かる。しかし、柔軟性や握力においてはさほどの差が見られなかったので、ウォーミングアップやクールダウンの見直し必要がある。

イ 選手の生活習慣と体力・運動能力

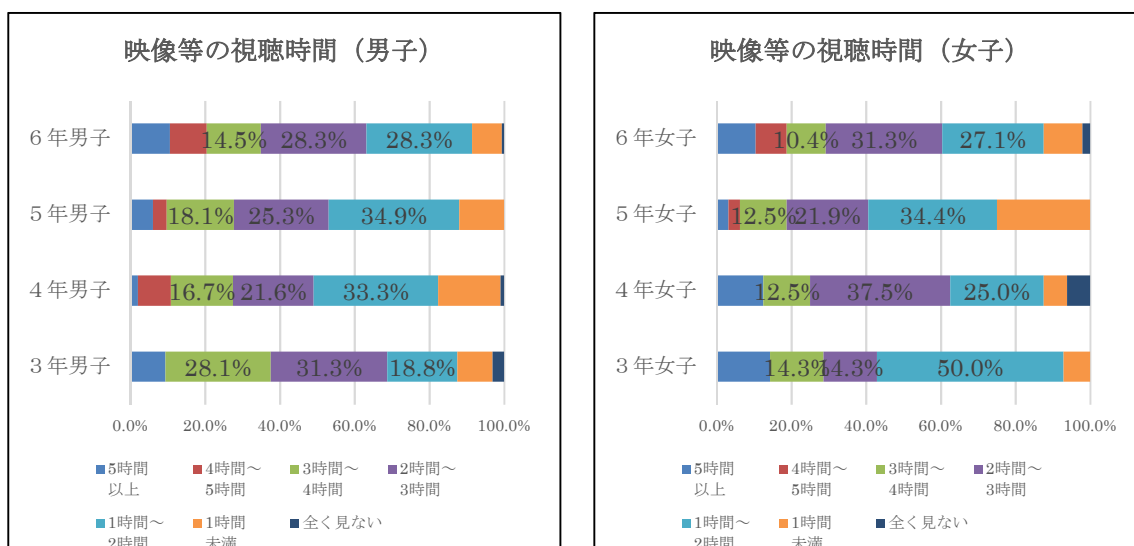
① 朝食の摂取状況

選手の朝食摂取状況は、「毎日食べる」割合は小学高学年男女よりも小学中学年男女の方が高く、「食べない日が多い」「食べない」割合は小学中学年男女より小学高学年男女が高い。



※ 朝食摂取状況別に体力合計点を比較してみると、「毎日食べる」と回答した選手は、それ以外（「食べない日もある」、「食べない日が多い」、「食べない」）の選手と比較し、体力合計点が高い傾向となっている。

② テレビ、DVD、ゲーム機、スマートフォン、パソコン等の映像の視聴時間
テレビ、DVD、ゲーム機、スマートフォン、パソコン等の映像の視聴時間は、「1時間以上」視聴している選手が全学年男女で7割を越えている。
また、「5時間以上」視聴している選手も全学年男女でいる。



※ 選手のテレビ、DVD、ゲーム機、スマートフォン、パソコン等の映像の視聴時間と体力合計点の関係を見ると、平日1日当たりの映像等視聴時間が長時間になると体力合計点が低下する傾向がみられる。

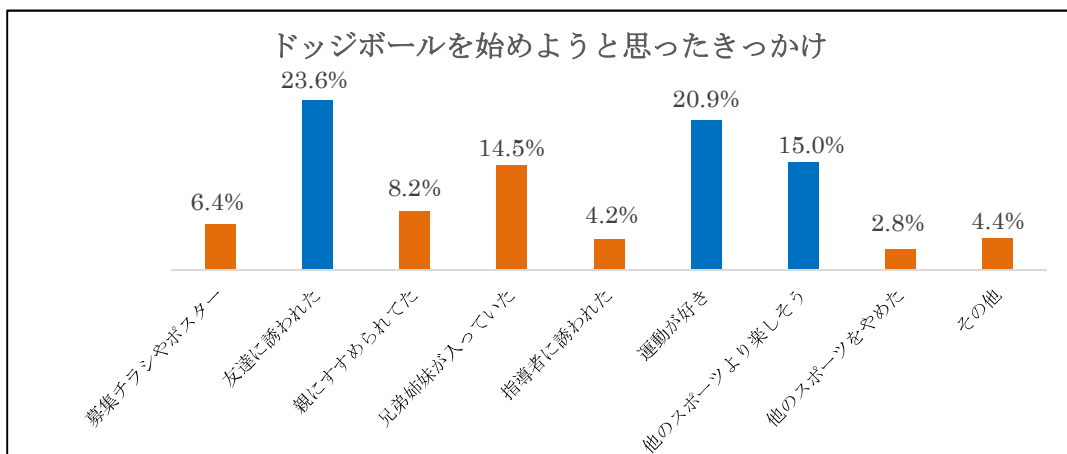
ウ テーマ分析

普及員委員会のテーマ「チームづくりの推進」について分析を行った。

① ドッジボールを始めようと思ったきっかけについて

ドッジボールを始めようと思ったきっかけ（理由）は、「友達に誘われた」「運動が好き」「他のスポーツより楽しそう」で約6割を示している。

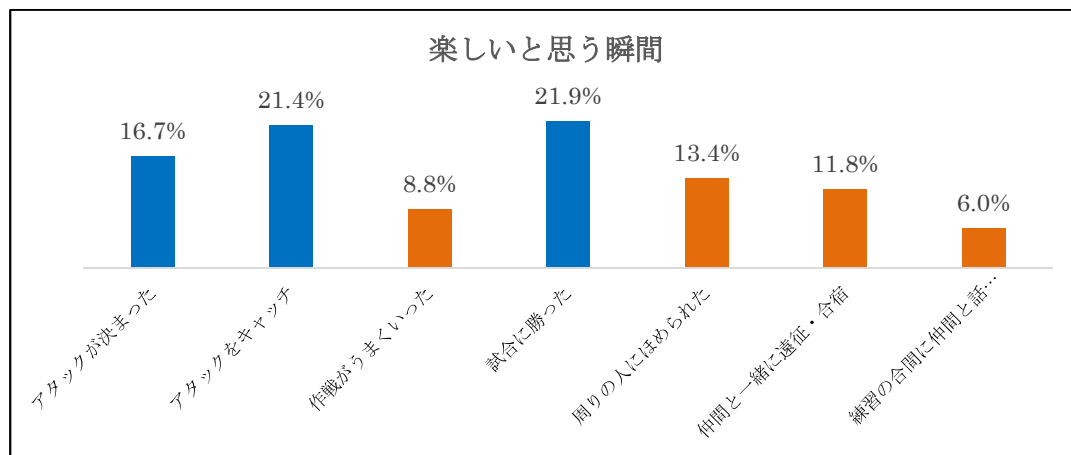
現在、どのチームも取り組んでいる「募集チラシやポスター」については効果が現れているとは言いがたい。



※ 選手にとっては、大人（指導者や保護者）の勧誘等より同じ世代の子供たち同士での勧誘で、入部（入会）しているようである。また、「運動が好き」「他のスポーツより楽しそう」という結果から、現チームの選手の子供たちがドッジボールの魅力や楽しさを周りの子供たちに語る（アナウンスする）ことができるようになれば、入部（入会）する子供が増える可能性がある。

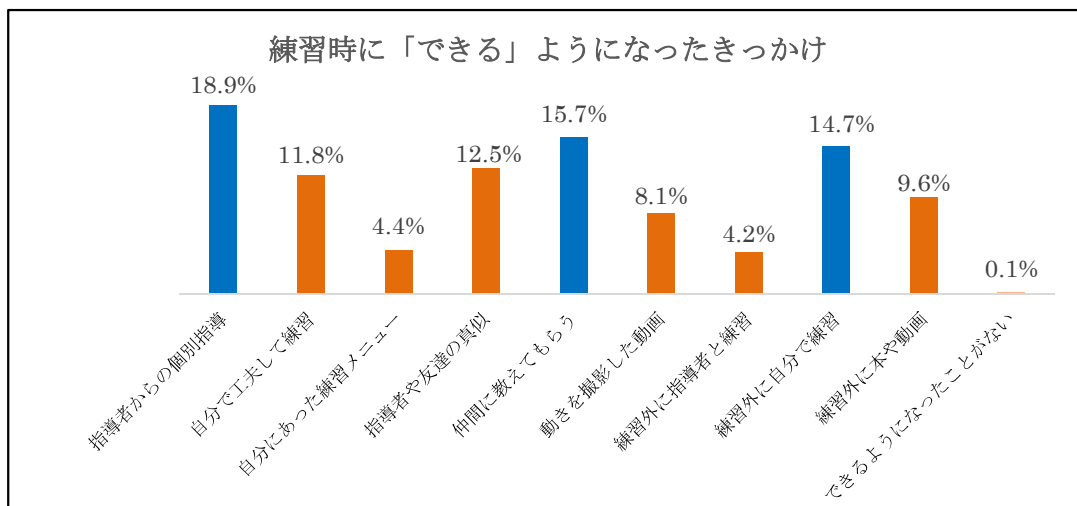
② ドッジボールをして楽しいと思う瞬間について

選手にとってドッジボールをして楽しいと思う瞬間は、「試合に勝った」ことはもちろんのこと「アタックをキャッチ」「アタックが決まった」の順であった。



※ 選手にとって「アタックが決まった」ことより「アタックをキャッチ」したことの方が楽しいと思えることから、守備をするときの「できる喜び」（達成感・成就感）を味わい、できたことを周りの人（指導者・仲間・保護者）から「ほめられる」ことでドッジボールをして楽しいと思えるようである。

練習時に「できる（達成感・成就感）」ようになったきっかけで、「指導者からの個別指導」「仲間に教えてもらう」「練習外に自分で練習」が高い傾向にある。



※ 練習や大会等をとおして、選手の達成感・成就感を味わわせ、できたことについてしっかりと「ほめる（正しく評価する）」「認める」ことが大切であるといえる。

また、そのような雰囲気のあるチームづくりが大切といえる。

※ 「動きを撮影した動画」は、実際プレイしている自分の姿を見ることができるので、後で自分のプレイを客観的に振り返ることができる。

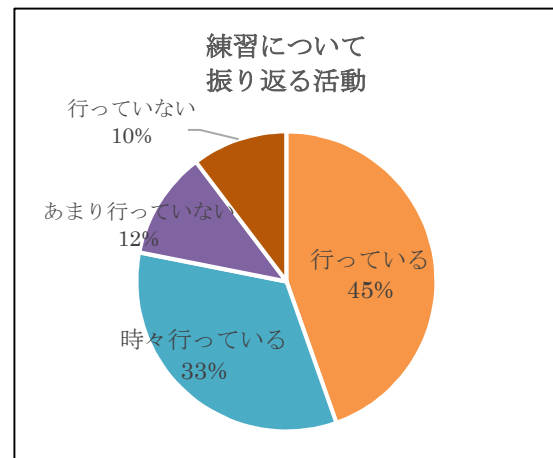
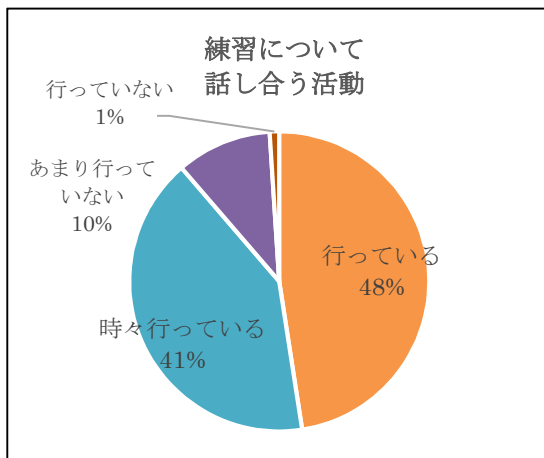
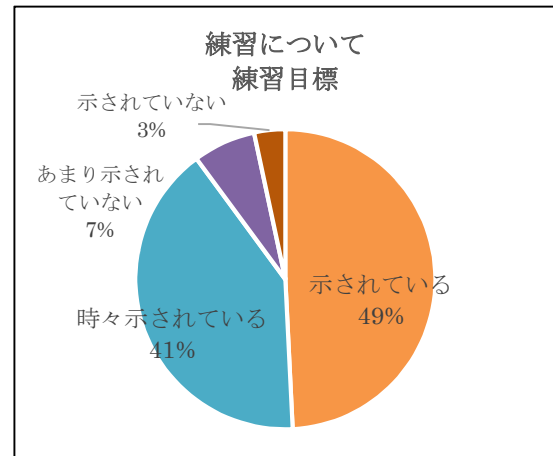
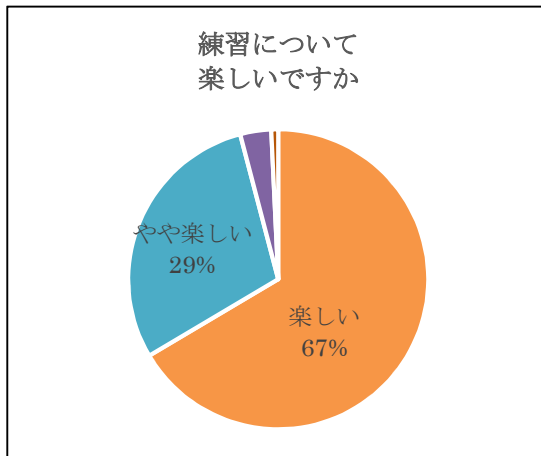
特に、入門期における「キャッチ」、「アタック」、「ドッジング」及びチームの「フォーメーション」等を動画で撮影するのは効果的である。

③ 練習について

練習について「楽しい」「やや楽しい」と思っている選手（全学年男女）が96%いる。しかし、4%の選手が「楽しくない」「あまり楽しくない」と思っている。

練習時に「練習目標」「話し合う活動」及び「振り返る活動」については、どの項目も「行っている（示されている）」「時々行っている（示されている）」と意識しながら練習に取り組んでいることがうかがえる。

しかし、「練習目標が示されていない」が3%、「振り返る活動を行っていない」が10%と少数ではあるが、意識の低い選手もいる。



※ 練習について、「長時間すれば全国大会で優勝できるのか？」という問いに対し、どの指導者も答えは分かっている。

それならば、どのような練習方法が適正なのか、様々なスポーツ評論家が述べていることは、「意図的な練習」である。そのことについて以下のとおりまとめてみた。

ア 目標の明確化

少し高め具体的な目標（数値化）を設定することで、自分の練習の成果が見えてくる。例えば「キャッチが上手になりたい。」とすると目標が広すぎてその成果が見えにくい。より具体的に目標を設定するには「キャッチが80%以上成功すること」と設定することで練習内容やその成果を図る方法が見えてくる。

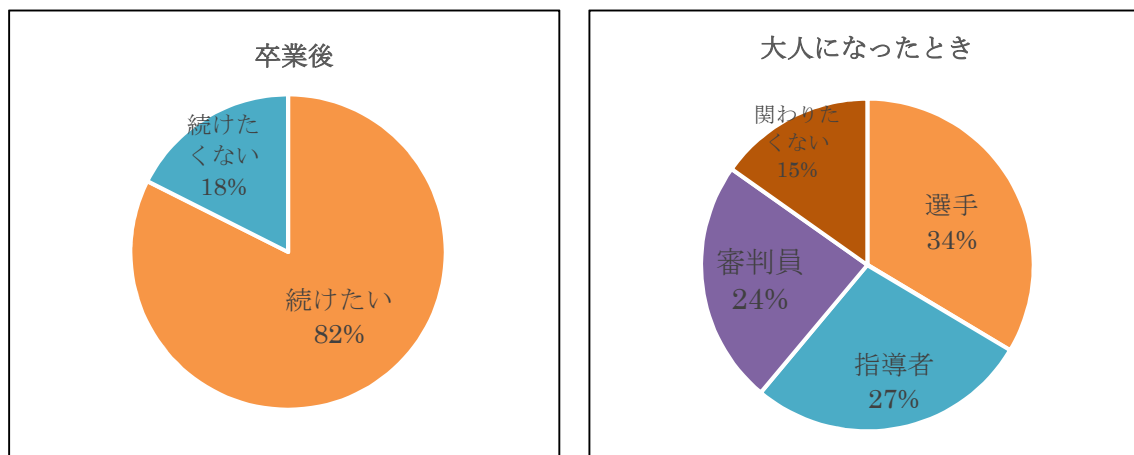
イ フィードバック（振り返る活動）

練習中や練習後にタイムリーなフィードバックが必要である。自分に不足していることや改善点を自分で振り返る（見つめ直す）ことで次のレベル向かうために必要なことが明確になる。

この他にも、練習中に選手同士で「話し合う活動」を取り入れることで、チームの雰囲気づくりに繋がり、試合中において、自ら考え行動できる主体的な選手が育成できる。

④ 選手の将来について

小学校卒業後、「続けたい」と思っている選手は82%であった。また、大人になっても「選手」(34%)、「指導者」(27%)、「審判員」(24%)としてドッジボール競技に関わりたいと思っている選手がいる。



※ 日本ドッジボール協会は発足以来、ドッジボールの普及活動、競技会などの各種大会を主催・後援してきた。幼児から高齢者まで年齢性別に関係なく誰もが生涯を通じて「いつでも・どこでも・誰とでも・いつまでも」をモットーに、生涯スポーツの一翼として普及育成に努めている。

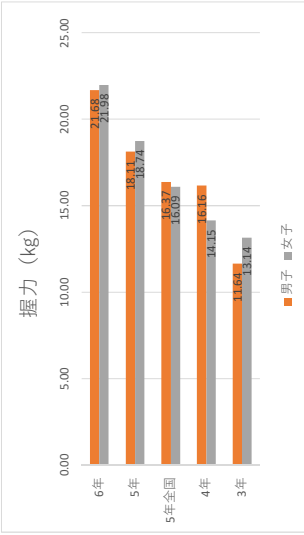
このモットーに基づき、今後も、選手の子供たちがドッジボールへ関わってくれるよう、各ブロック連絡会（各都道府県協会）、チームの皆さんと連携を図りながら普及育成していきたい。

小学生ドッジボール全国大会出場選手の
体力・運動能力等に関する調査

集計資料

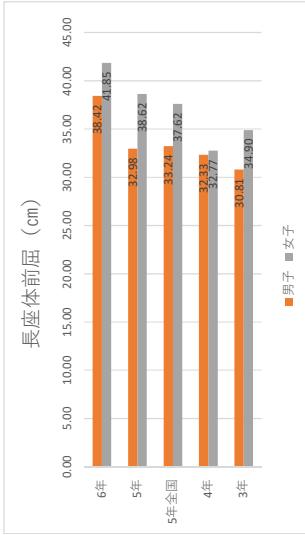
握力 (kg)

	男子	女子
6年	21.68	21.98
5年	18.11	18.74
5年全国	16.37	16.09
4年	16.16	14.15
3年	11.64	13.14



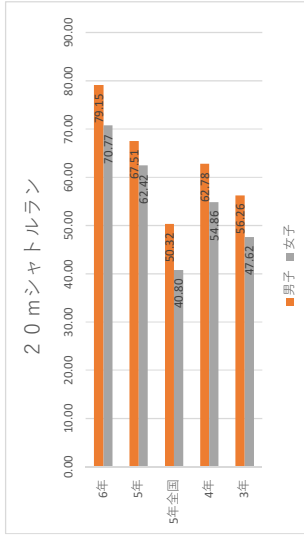
長座体前屈 (cm)

	男子	女子
6年	38.42	41.85
5年	32.98	38.62
5年全国	33.24	37.62
4年	32.33	32.77
3年	30.81	34.90



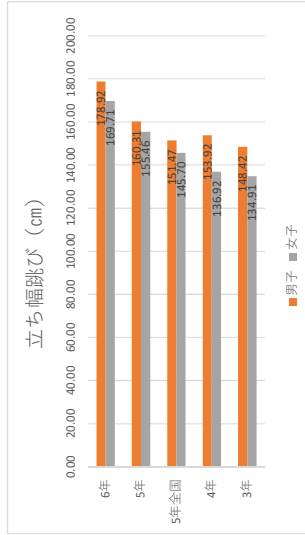
20mシャトルラン (回)

	男子	女子
6年	79.15	70.77
5年	67.51	62.42
5年全国	50.32	40.80
4年	62.78	54.86
3年	56.26	47.62



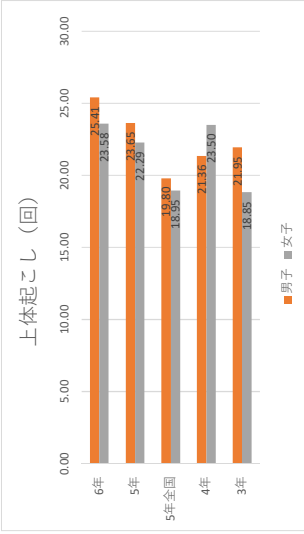
立ち幅跳び (cm)

	男子	女子
6年	178.92	169.71
5年	160.31	155.46
5年全国	151.47	145.70
4年	153.92	136.92
3年	148.42	134.91



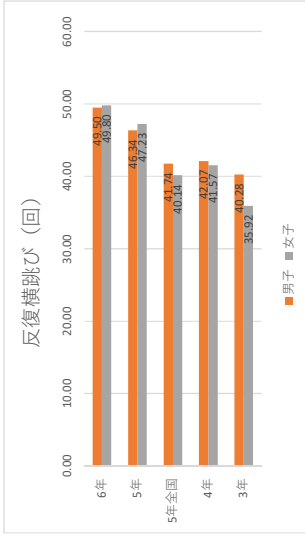
上体起こし (回)

	男子	女子
6年	25.41	23.58
5年	23.65	22.29
5年全国	19.80	18.95
4年	21.36	23.50
3年	21.95	18.85



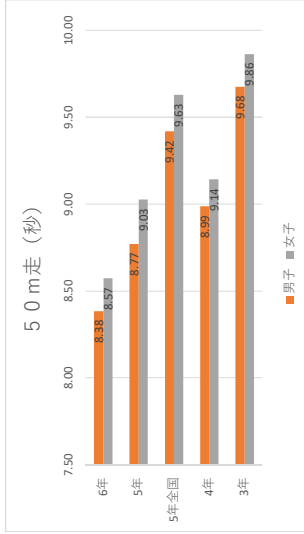
反復横跳び (回)

	男子	女子
6年	49.50	49.80
5年	46.34	47.23
5年全国	41.74	40.14
4年	42.07	41.57
3年	40.28	35.92



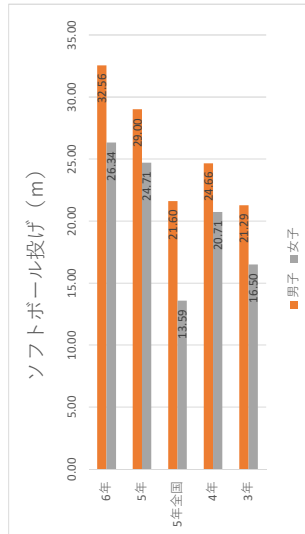
50m走 (秒)

	男子	女子
6年	8.38	8.57
5年	8.77	9.03
5年全国	9.42	9.63
4年	8.99	9.14
3年	9.68	9.86



ソフトボール投げ (m)

	男子	女子
6年	32.56	26.34
5年	29.00	24.71
5年全国	21.60	13.59
4年	24.66	20.71
3年	21.29	16.50



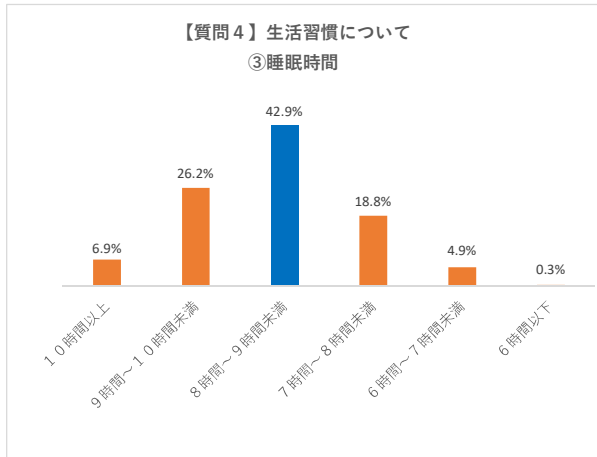
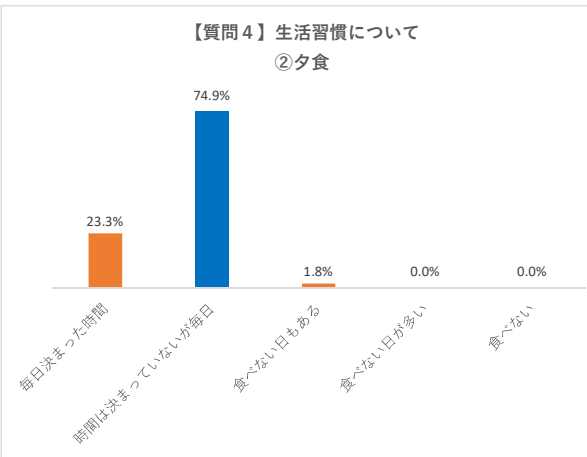
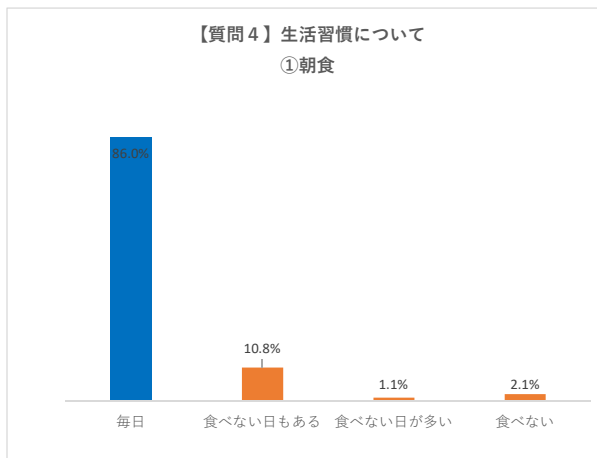
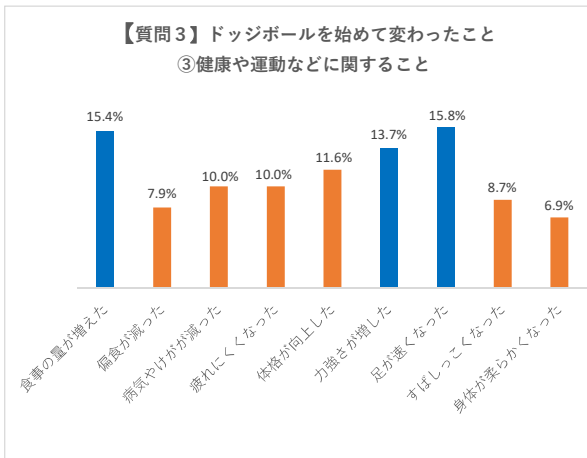
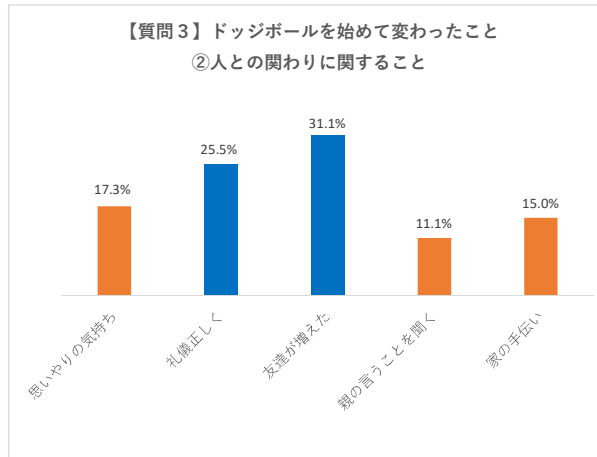
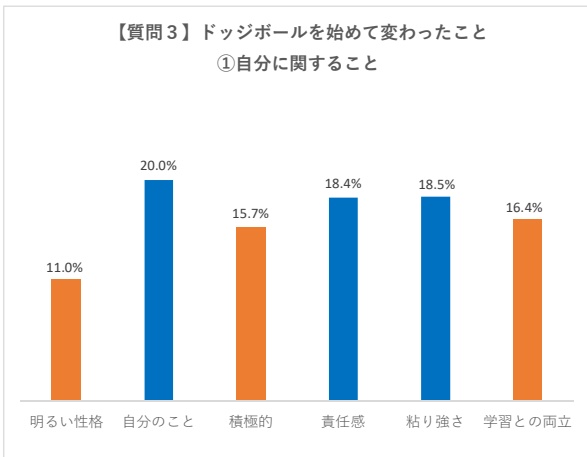
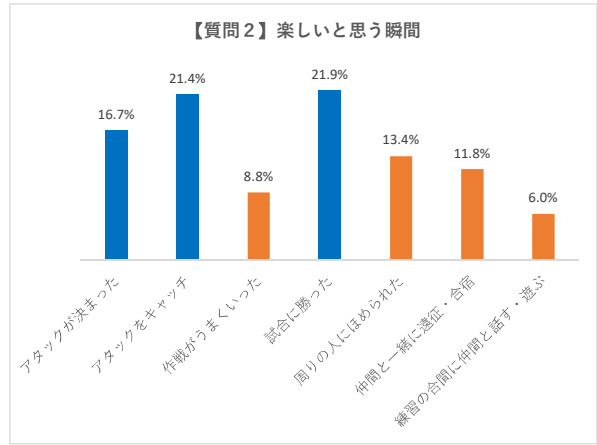
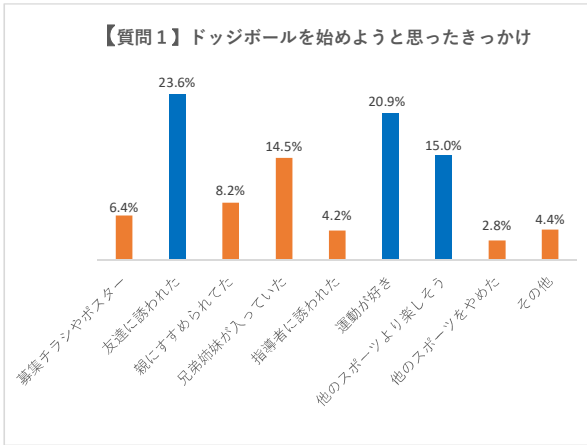
□体力・運動能力調査 総合評価

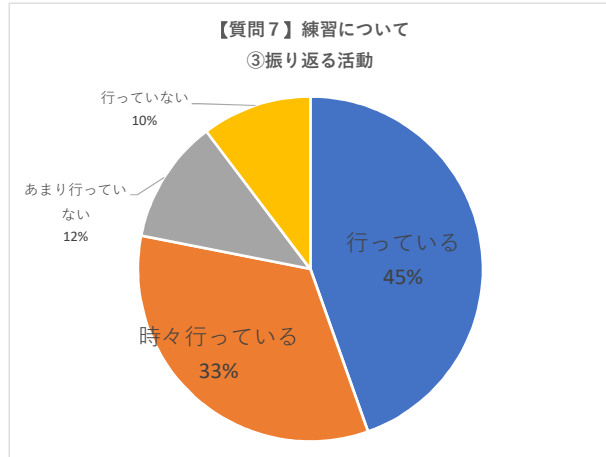
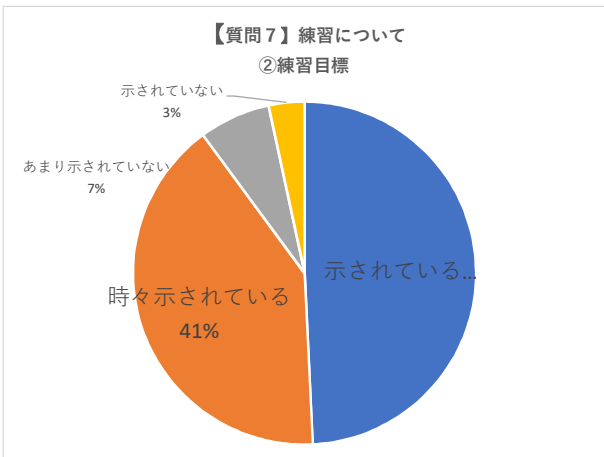
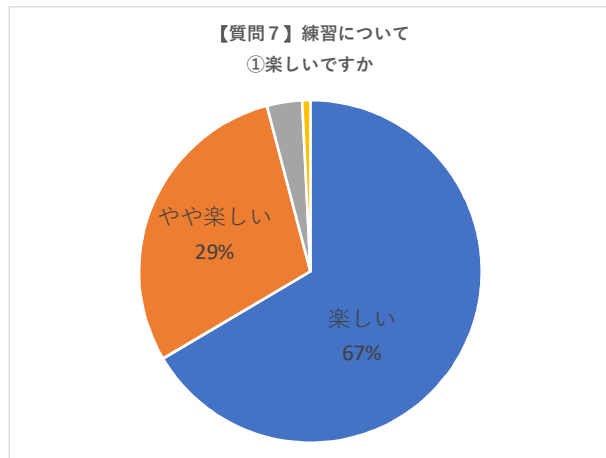
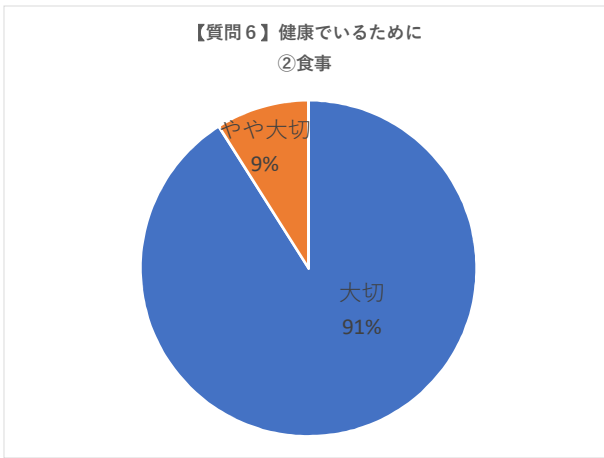
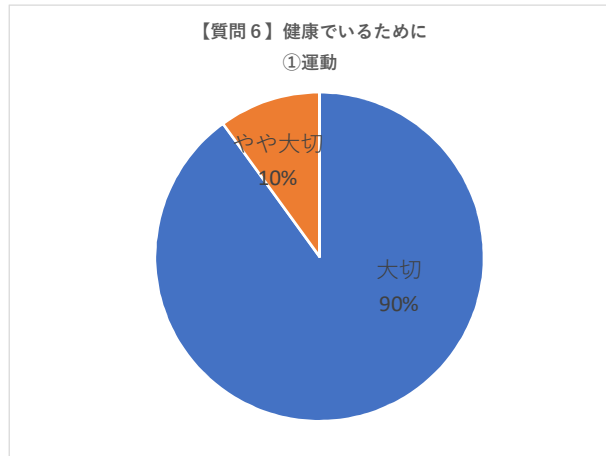
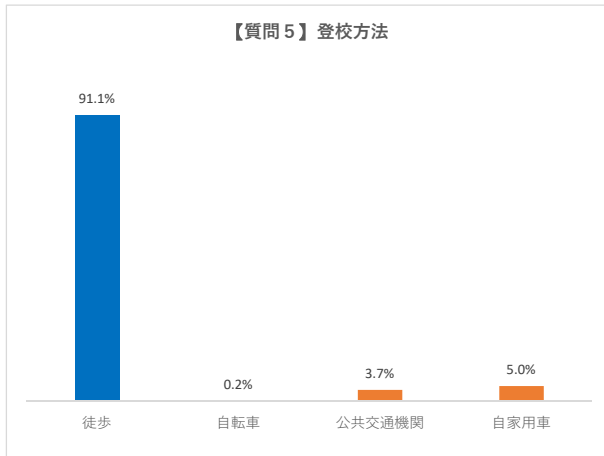
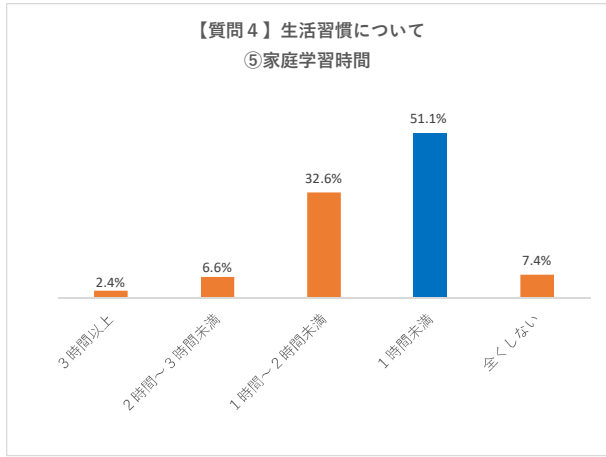
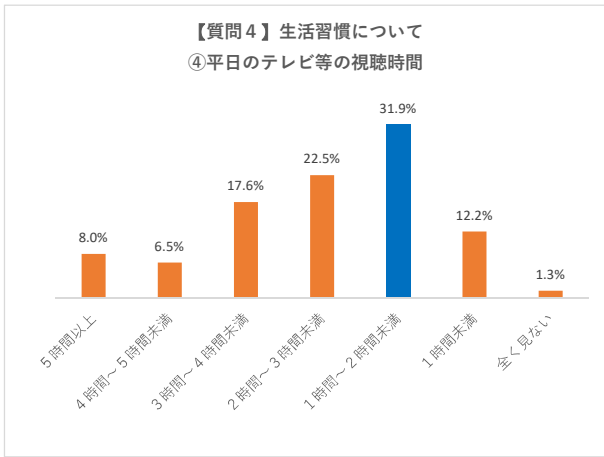
6年	男子	女子
握力	8	8
上体起こし	9	9
長座体前屈	8	8
反復横跳び	9	10
20mSR	9	9
50m走	9	8
立ち幅跳び	8	8
ソフトボール投げ	8	7
合計点	68	67
総合評価	B	B

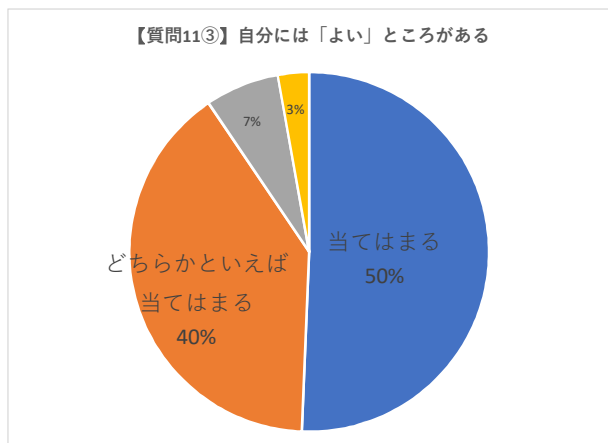
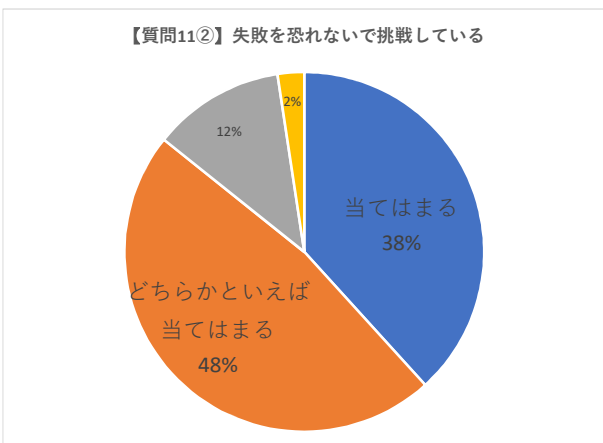
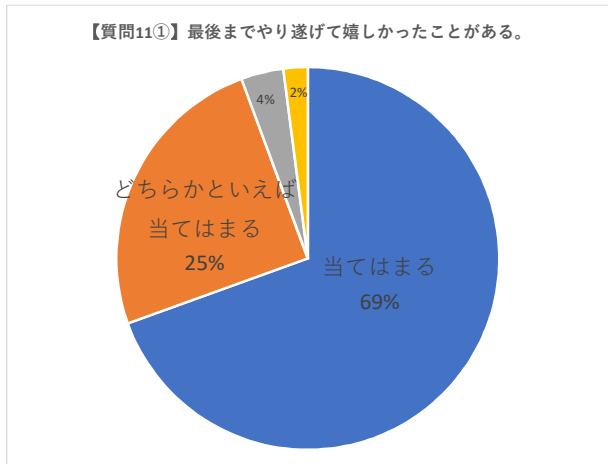
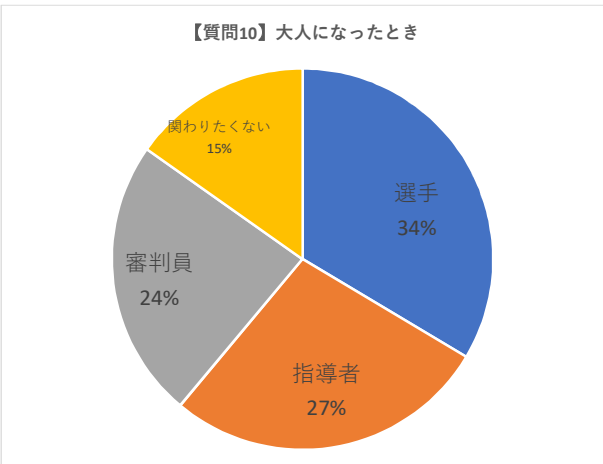
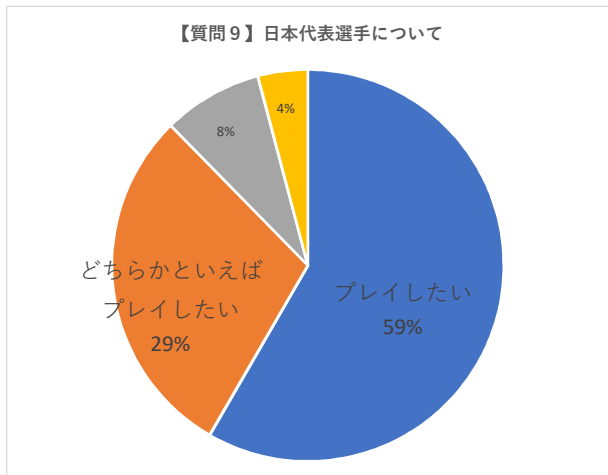
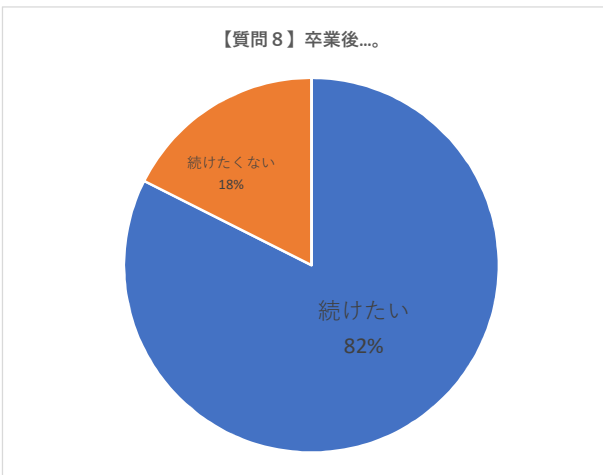
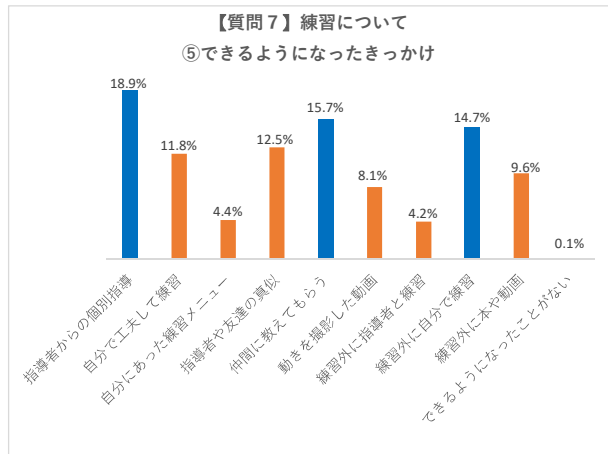
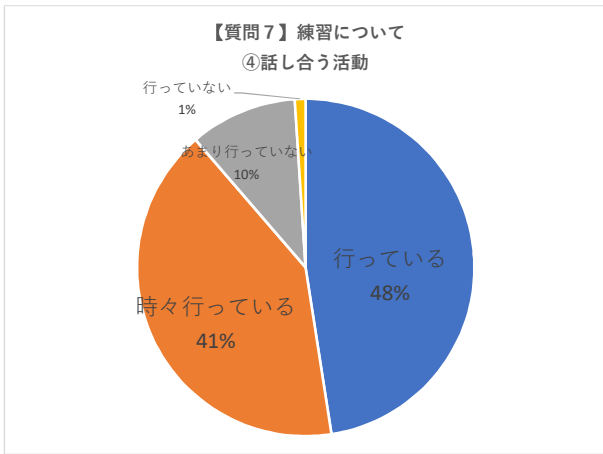
5年	男子	女子
握力	7	7
上体起こし	9	8
長座体前屈	6	8
反復横跳び	9	9
20mSR	9	8
50m走	8	7
立ち幅跳び	7	6
ソフトボール投げ	7	7
合計点	62	60
総合評価	B	B

4年	男子	女子
握力	6	6
上体起こし	8	9
長座体前屈	6	6
反復横跳び	8	8
20mSR	8	7
50m走	7	7
立ち幅跳び	6	5
ソフトボール投げ	7	6
合計点	56	54
総合評価	B	B

3年	男子	女子
握力	5	5
上体起こし	8	7
長座体前屈	6	7
反復横跳び	7	6
20mSR	7	7
50m走	6	6
立ち幅跳び	6	5
ソフトボール投げ	6	5
合計点	51	48
総合評価	B	B







【調査へ御協力いただいたチーム】

北海道	SHINANODBC	京都府	FALCON FIGHTERS
岩手県	らいじんぐ童夢	大阪府-1	菅原ダイナマイトハリケーン
宮城県	荒町フェニックス	大阪府-2	東淡路タートルキッズ
山形県	松原エンデバーズEX	和歌山県	四箇郷ドッジボールクラブ
福島県	鳥川ライジングファルコン	鳥取県	くろぼくガッツエース
茨城県	河和田ボンバーズ	島根県	神戸川レッドブリッジ
栃木県	北郷☆Five	岡山県	倉敷ブラックファイターズ
群馬県	プニーズ☆TERAO	広島県	ぶらんど PARSLEY 山本
埼玉県	岩槻ジェニシス	山口県	湯田ドッジファイターズ
千葉県	わかまつ TIGERS	福岡県	飯倉シャイニングキッズ
東京都	道塚ドリームウイングス	佐賀県	シュネル鍋島
神奈川県	ゼブラ★パワーズ	長崎県	鳴見台ドッジ☆スピリッツ
山梨県	北麓ファイターズ	熊本県	スクラムくまもと
富山県	針原パイレーツ	大分県	佐賀関バトルフェニックス
石川県	鞍月アタッカーズ	宮崎県	ひまわりドリームキッズ
福井県	附属ドッジファイターズ	鹿児島県	犬迫ファイティングドッグ
長野県	SAKURA	沖縄県	松島魂凶
滋賀県	レイクイーストファイヤーズ		